

あなたかっくろペーじ

みんなで愛の献本運動を

門田耕喜(後免町公民館長)

「広報なんこく」五月十五日号の市政モニターページに、「南園市には図書館がない。簡単な図書館を作って、本一冊寄附運動を働きかけては」との記事がのっていましたが、私も同感です。独立した図書館を一日も早く建ててほしいものです。県下九市の中で図書館のないのは南園市だけではないでしょうか。昭和四十四年後免町公民館に設置した図書室は、南園市をはじめ市民のご協力により、現在一千六百冊余りとなりました。参考書、全集、歴史小説、児童書など

ほくみだいに丸坊主にしないか

中田庸介(稲生)

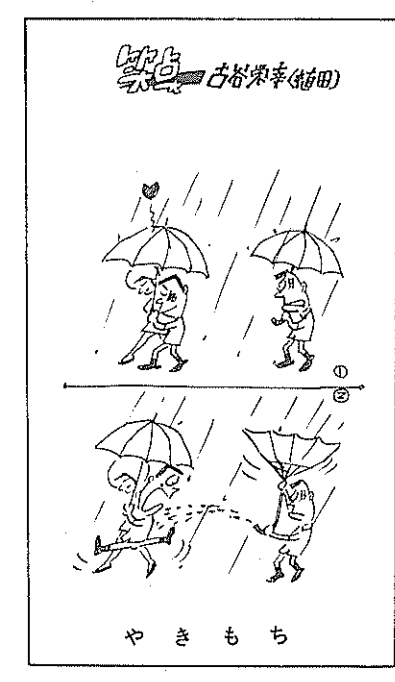
(十歳・生徒)



目ざめた時

やがて夜明けが訪れて
安らかなまどろみに息づくのを
感じる。
窓の外では静寂と雨が降っている。
柔和な顔をした風船がすつと
頭の中からすり抜けてしまふ。
雲が悲しんで雨になったのだ
昨日見た夢をつかまえたのなら
私はもういい。どうなっても……
時は息をすることすら
忘れていた。すると
暗示された幸福の夢が
心の中を巡る時
私にはそれをとどこでどうやって
探す術もない。
枯れた花を一度と咲かすことは
出来ないのか……

森田房子(大埔)



詩

ほくの頭

ぼくの頭は丸坊主
だから風なんか吹くと
とつともすすしい
髪の毛を長くのばしている男の子

南園市(南園市)

★十市小学校★
南園市の南西端、野山の恵み、海幸の豊かな十市のほぼ中央部に、ほくらの十市小学校があります。
児童百四十四名、学級数六、先生方十二名の小さな学校ですが、いのちをだじしに、心身をきたえる子など五項目の「十市のよい子」になるよう努めています。校舎は古い上に危険な所が、改築の必要がありますが、いろいろな事情でなかなか実現しません。それが今のほくらにとって一番残念なことです。でも、そんなほくらに誇りにしている



学校めぐり



ご家庭で話し合っって答えてください。答えは今月号の広報に出ています。
■もんだい・四月から吾岡保育園が開園。これで民間保育所と公立を合わせて〇〇保育所となった。
■しめきり・七月十五日(木)
■おくり先・千七百八十三 南園市大埔・南園市役所内 広報委員会 親子クイズ係
■答えのハガキには必ずお歳・職業を書いてください。
■しょうひん・特賞千四百三十二人
■残念賞(記念品)一十八人
第五十七回正解発表表
■こたえ・〇月〇日でした。
■特賞・千四百三十二人
和静子さん(久礼田)
中村千恵子さん(下野田)
岡林保江さん(久礼田)
■残念賞・記念品一十八人
藤村久子(下野田) 北村充弘(石) 宮本真紀(奈路) 沢村きみ子(三富) 中川明美(大埔) 森田鹿(後免中町) 山中富寿子(堀の内) 坂本誠孝(領石) 戸梶之裕(稲生) 中田倫代(稲生)

■前号でお知らせした教室生募集のなかで、費用が材料代のみ、なし、となつていますが教室によっては講師の先生への謝金などの運営費の一部を個人負担で行っているようです。参加を希望される人は体育館、後免町公民館でいろいろのことについておたずねください。
■広報の台所も苦しく今月号から親子クイズの特賞が千四百三十二人になりました。

参禅の心得しるす梅雨の門
緑陰にかかる化粧をなおしけり
握り来し螢を庭に放ちやる
妻の忌の春蚊に鳴かれ暮を去る
峽の田の雲につまづくあめんぼう
藤の花長子昼まで寝るつもり
鉄線花菱をのばして明日撫む
花しようぶ競わせ晩年を歩き出す
立春やころころと錠剤逃げる

南国俳壇

大谷 みえ(柿の実念)
大崎 雅子()
川島 青可()
井上 三三(灯俳句会)
田村 一翠()
三宮たか志()
和泉えい子(若草句会)
高村三喜子()
馬場 左枝()

南国歌壇

朝毎に花を見つめてやわらぎつ
青菜の陰にのぞくつせん
青葉の陰にのぞくつせん
里改田 楠瀬米井
みどり児を抱きて竹すむ弟の
作業衣にまだおがくすの付く
大埔 伊藤誠子
ドアに貼る面会謝絶除かれて
今日ある夫の命に泣きし
前浜 沢田千恵子

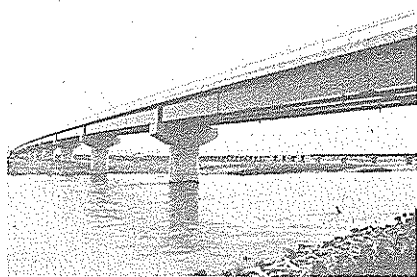


▶今年も夏の災害シーズンを迎えようとしています。六月七日、市内一円では市民参加の防災訓練が行われ、非常事態に備えて実践しながらの訓練が展開されました。もしものときにあわてないよう、日頃からみんなが気をつけておきたいものです。



▲小笠原市長の講演に熱心に聞き入る教室生。今年の中央高齢者教室には三百三十八人から申込がありました。六月十七日の開校式には二百三十人が参加。今年の行事予定などを決めた。参加を希望される人は今からでもどうぞ、申込は社会教育課まで。

ものが二つあります。教育委員の福岡弘幸先生(元本校校長)たちが造って下さった算数庭園と、「不断の努力天才を凌ぐ。一日三時間の勉強」と刻まれた郷土の生んだ大数学者細川藤石衛門先生の頌徳碑です。百年をこす古い歴史と伝統をもつほくらの学校に残された先生方と先輩のほくらへの増り物が、今もほくらを暖かく励ましてくださっています。
進取で、粘り強い十市の子を自ざすほくらは今、「本の好きな子」をも目ざして頑張っています。読書朝礼・読書カード・感想文集(別冊しおかぜ)などと取り組んでいます。
各学年がそれぞれの能力に応じて工夫し、みんなで楽しい読書運動を進めています。
「読書カード」「しおかぜ」のように、書いたものをファイルに次々ととじていって、だんだんと立派な個人やみんなの文集ができて、ほくらの生長の記録ともなることなど、楽しい中にもほくらに心を残る経験を積み重ねています。
毎日の勉強は勿論、学校行事・特別活動・こども会活動・スポーツ教室など、しなければならぬことが多く忙しい毎日ですが、幅の広い勉強をするよう頑張っています。



南園市の竹村清さんと吉川村の高瀬利行さん両家の親子三代夫婦が、六月十二日物部川大橋の渡り初めをした。老朽化した下ノ橋の付け替えとするもので、黒潮観光ラインの新名所となりそうである。